

庄川中学校 令和4年度 卒業式 式辞

庄川中学校のあたり前。

学校の横を流れる庄川のせせらぎ。春、桜が満開になる堤防沿いの道。

さまざまな困難を乗り越えようと、試行錯誤を繰り返してきた三年間。そんな葛藤の中でも、自然の営みは変わらず、庄川沿いの桜の木々も、咲くときはまだかと待ちわびています。49名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日は、砺波市副市長 齊藤 一夫 様をはじめ、地域からご来賓の皆様をお迎えし、第76回卒業証書授与式を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

みなさんが入学した年に、私もこの学校に赴任しました。感染症との闘いの中、これから始まる中学校生活へのワクワクした気持ちとともに、大きな不安を抱えていたことを思い出します。

そんな中、自分の思いをもち、それを表現できる人になってほしいと願い、「思いを形にできる学校」という重点目標を掲げました。

表現する場には、相手があります。そして、この庄川中学校には、表現を受け止める「あたり前」がありました。

あたり前。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」庄川中学校には、人と人をつなぐ言葉があふれています。

そしてそれは、安心して学校生活を送るための土台となる「あたたかさ」をつくってきました。失敗を恐れず、やってみようと思う気持ちは、ここから生まれるのかもしれない。

あたり前。話す人と聞く人。それぞれが、目と心をつないでいます。

こうして、みなさんの前で話す機会が、私には何度もありました。その時も、今と同じ。みなさんの目は私とつながっていました。話を聞く姿勢やうなずく姿に、もう少し話したい、もう少し一緒にいたいと感じました。それは、みなさんと学校生活を送る先生方も、同じ気持ちだったと思います。

あたり前。だれかが分からないと言った

ら、それをみんなで解決する、集団で学びに向かう力があります。

2月に行った、「庄中学びのプロジェクト」の縦割り授業では、3年生の学びに対する姿勢を、1、2年生に見せることができました。

なりたい自分に向かうために挑戦してきた三年間。その挑戦は、庄中生の「あたり前」の上に成り立っているものだと思います。それと同時に、あたり前がこんなにもありがたいことであると感じた三年間でした。

保護者のみなさま。お子さまのご卒業、おめでとうございます。

中学生という多感な時期を、いつもあたたかく見守り、応援していただきました。本当にありがとうございました。

人は、健康な時ばかりとは限りません。体の調子が悪いとき、悩みを抱えているとき、本人と同じくらい、いえ、それ以上に心を痛めておられたその思いは、必ず、お子さまに届いていたに違いありません。

昨日お子さまが持ち帰った赤いリボン。お子さまは、義務教育の9カ年で、その長さの分だけ体も大きくなりました。そしてそれは、笑った分、泣いた分、悩んだ分の心の成長でもあります。

この先は地域や社会の中で、自立、貢献、共生していく子どもたちを支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

最後になりました。卒業生のみなさん。

みなさんがつくってきた「あたり前」は、この先のどんな場面でも、誇れるものです。そしてそんな「あたり前」をつくってきたみなさん一人一人は、庄川中学校の誇りであり、この庄川の宝です。「明快錬磨」庄川中学校で伸ばした力を信じて、自分で決めた道を歩んで行ってください。

「結果は後からついてくる」

皆さんの前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。

令和5年3月15日

砺波市立庄川中学校
校長 近藤 美恵子